

健康な心と体を育てるための幼小連携の現状と課題

上村憲（愛媛大学）

1. 目的

本研究では、幼小連携の現状と課題を明らかにする。また、2つの幼稚園における運動遊びの実態を調査し、園による運動遊びの違いを明らかにする。そして、健康な心と体を育てるための幼小連携について検討することを目的とする。

2. 研究方法

①幼小連携に関する質問紙調査

- 1) 対象者：愛媛県、香川県内の幼稚園教諭 95 名，小学校教諭 103 名，計 198 名
- 2) 調査方法：質問紙を配布・回収した。
- 3) 分析方法：回答結果を Excel シートにまとめ，データ集計した。

②幼稚園における運動遊びの観察調査

- 1) 対象者：E 幼稚園と S 幼稚園の園児
- 2) 調査方法：運動遊びの参与観察を行い，内容や特徴について書き留めた。

③小学校教諭への幼小連携に関する面接調査

- 1) 対象者：愛媛県内と香川県内の小学校に勤務する現職教諭 4 名
- 2) 調査方法：半構造化面接法で行い，記録方法はレコーダーで音声を録音した。
- 3) 分析方法：音声を文字化し，回答を表に整理し考察を行った。

3. 結果と考察

①幼小連携に関する質問紙調査

幼小連携に関して特に重要であると考えられるものに関する質問のうち「校種間での教員同士の交流」では幼稚園教諭は高く，小学校教諭は低い値を示し，幼稚園教諭と小学校教諭の意識の違いが見られた。幼小連携において校種間の教員同士の交流を密にし，幼稚園教諭

は園での運動遊びの内容や経験などの詳細を情報交換することが課題であると考えられる。

②幼稚園における運動遊びの観察調査

園によって運動遊びの特徴や内容は異なることが推測され，小学校 1 年生の学級担任は，幼・保における運動遊びの違いを理解することが必要だと示唆される。また，幼児期に小学校の体育で身に付ける内容を既に身に付けている児童が入学してくる可能性も大いにあることを理解する必要があると示唆される。

③小学校教諭への幼小連携に関する面接調査

就学前までには技能面よりも運動経験を積ませて欲しいということが示唆され，幼児期には，様々な運動の経験を多く積ませることで小学校での体育授業にスムーズに連携できると考えられる。

4. 結論

本研究の結果から，幼稚園教諭は，園での活動の様子の詳細を情報交換するとともに，運動遊びの重要性について一層理解を深め，子どもたちに多様な運動の経験を積ませる必要があると考えられる。また小学校教諭は，幼・保の活動を理解するとともに，小学校の体育で身に付ける内容を既に身に付けている児童が入学してくる可能性があることを理解し，体育授業へ接続させていく必要があると考えられる。

5. 文献

- 文部科学省（2010）幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）。
- 文部科学省（2012）幼児期運動指針。
- 文部科学省（2008）小学校学習指導要領解説体育編。